

○近藤 恵 小林茂雄

(共立女子大学)

目的 代表的な衣類についての有効利用の実態を把握するとともに、紳士ワイシャツを事例として、衣類の有効利用の有無と生活環境要因および生活情報要因との関連性について検討した。

方法 家庭において主として衣類の処理を行っている40～50才代の首都圏在住者を調査対象とし、衣類の有効利用に関する10項目、生活環境に関する要因（地域との密着度）8項目、生活情報に関する要因（ゴミ問題に対する参考情報の種類）8項目について尋ねた。調査票は、大学生を通して各家庭に配布し、留置法により回収した。調査票配布数は576件、回収数306件、有効回答数301件で、調査期間は、平成7年11～12月である。

結果 家庭における有効利用の方法10項目を変数、衣類10種類を観測回数として、因子分析を行った結果、「再利用・再使用の手軽さ」、「再着用に對する思い入れの強さ」、「修繕のしやすさ」を示す3因子が抽出され、衣類個々の特性が位置づけられた。また、紳士ワイシャツ類の有効利用の有無と生活環境要因および生活情報要因との関連性を検討した結果からは、たとえば、家庭でのリフォームの有無は、自治会役員等地域での役割を持っているか否か、あるいは、ボランティア団体等民間団体からの情報を参考にしているか否かと関連性を持っていることが、また、古着屋やリサイクルショップの利用の有無は、現在の土地に住み着いて何代目になるか、あるいは、メーカーや販売業者等事業者からの情報を参考にしているか否かと関連性を持っていることなどが統計的に明らかになった。